

KYOTO Design Lab Lecture with the DIST/Politecnico [Politecnico di Torino] トリノ工科大学

インダストリー4.0〈第4次産業革命〉
人間とデジタル「機械」の関係に焦点を合わせ、
デジタル文化が与えるインパクトを分析する

Theme

People and Industry 4.0 in Italy.

Digital culture, work that changes, challenges for the university

イタリアにおける人間とインダストリー4.0 / 第4次産業革命



Schedule

Tuesday 9 July, 2019 10:30–12:00

2019年7月9日[火] 10:30–12:00

Venue

Room 111, Building No.1 in Kyoto Institute of Technology
京都工芸繊維大学 1号館 111教室

Summary

インダストリー4.0〈第4次産業革命〉それはデジタル「機械」と我々の関係がどのように進化しているか、そしてそれらが現在の社会的・生産的プロセスにどのように影響を与えているのかを示しています。タティアナ・マザリは、Made in Italyの企業で実施された実証研究から収集されたデータを共有し、イタリア人がどのようにIndustry 4.0で発生した問題に取り組んでいるのか、およびその機会について考察します。とくに、イタリアの現代的「職人」の肖像を提供するために、人々とデジタル「機械」の関係に焦点を合わせ、デジタル文化と通信メディアが「インテリジェント」工場で重要なツールになっていることを分析します。

Lecturer

Associate Professor Tatiana Mazali [DIST]

タティアナ・マザリ 准教授 [トリノ工科大学メディア・コミュニケーション・文化社会学 准教授]

人間の働き方に対するデジタル文化のインパクトに関する研究活動を進めている。特に、デジタルワーカー、クリエイティブな文化産業、インダストリー4.0〈第4次産業革命〉のパラダイムについて。ヨーロッパ社会学協会における「メディアとコミュニケーションの社会学研究」の研究ネットワークメンバーのひとりである。近年の著書として“From industry 4.0 to society 4.0, there and back”, AI & Society 33(3) (2018); Il lavoro che serve. Persone nell'Industria 4.0, Guerini e Associati 2018; Digital Workers. I professionisti della creatività digitale, Aracne 2016.



[公開講演]

事前申込不要

聴講自由・先着順

—
全学年・全専攻および
学内外からの参加を歓迎します

—
日・伊 逐次通訳あり